

意見

コミュニティセンターの貸館化について

今年度から土曜・日曜のコミュニティセンターが、職員不在となり使いにくくなりました。昨年度までのように職員がいる状態に戻してほしいです。

回答

コミュニティセンター業務全般について、業務に直接携わるセンター職員も交えながら様々な観点から検討を行った結果、特に土曜・日曜・祝日にコミュニティセンターを利用される方のほとんどが事前申込者であること、また、既に貸館化しているセンターにおいても職員を配置しないことにより特段の問題が生じていないといった実態を受け、土曜・日曜・祝日については職員を配置しない「貸館化」とする方針といたしました。

意見

ゴミ袋への記名について

ゴミ袋に名前を書く習慣に戸惑いを覚えます。高い有料の袋を買い、そのうえ近隣の人から見られるようにゴミの制度を変更してほしいです。

回答

出雲市では、ゴミを排出される方に、ゴミの分別について、責任をもつていただくため、ゴミ袋への名前の記入をお願いし

センター主催事業やコミュニティセンターが関係する地域行事等がある場合には、これまでどおり職員は出勤することとするなど、利用実態にできるだけ合わせる形で「貸館化」を導入したところであり、平成23年4月からは、36センターの内、実施可能な33センターで「貸館化」に対応いただいている状況です。
長年慣れ親しんでいたコミュニティセンターの利用形態を変更したことで戸惑われる面もあるかと思いますが、どうかご理解いただき、これまでと変わらぬコミュニティセンターのご利用をお願いいたします。〔自治振興課〕

開かれた市政をめざして 皆さまからのご意見にお答えします。

市民の皆さんから市政に対するご意見・ご提案をいただいています。お寄せいただいたご意見等は市政に反映させてまいります。今回は、今年4月から7月までにいただいた意見・提案の一部を紹介します。



意見

ドクターヘリの騒音について

県立中央病院にドクターヘリが就航しましたが、ヘリコプターの騒音に困っています。ドクターヘリの必要性は理解しているつもりですが、離陸・着陸の回数が多く、また高度が低いため、騒音に対する負担が大きいです。この制度を長く続けていくのであれば、病院付近の住民の理解を求めると考えます。

回答

ドクターヘリは、島根県（健康福祉部医療政策課）において、本年6月13日から県立中央病院を基幹基地として運航が開始されました。

今、島根県の医療体制は、深刻な医師不足により、特に県西部ならびに隠岐島では、救急医療や高度医療が受けることができない状況にあります。幸いにも出雲市は、島根県では唯一「救命救急センター機能」をもつ県立中央病院と高度医療を行う島根大学病院があり、医療体制は充実し、全国的にも恵まれている医療環境にあります。

島根県からの回答

ドクターヘリの騒音によりご迷惑をおかけし、申し訳ありません。

島根県は、厳しい医療情勢

一方、県西部からは県立中央病院まで救急車により重篤な患者を2〜3時間以上かけて搬送してまいりました。

出雲市としても、こうした現状を解決するためのドクターヘリの運航には協力していかねればならないと考えています。いただきましたご意見は、運航管理をしている島根県立中央病院並びに島根県（健康福祉部医療政策課）にきちんと伝え、周辺の皆様へご理解をいただくよう出雲市としてもお願いをしております。〔消防総務課〕

のもと、県民がどこに住んでも、より迅速な救急医療や適切な高度医療を受診できるように、ドクターヘリを導入し、

しています。

また、ごみ収集の迅速化及び効率化をはかるため、集積場所を設けてごみを出していただくようお願いしておりますが、ごみの分別が不十分な場合など、収集業者が理由を記入した貼り紙をして、ごみを残し、適正な排出をお願いしています。そのため、集積場の管理の観点から

も、名前の記入をお願いしています。

ごみ袋の有料化についてですが、排出量に応じた負担をお願いするとともに、不要なものの購入をさけるなど、ごみの減量化を推進するため、料金の負担をお願いしています。

〔環境生活課〕

意見

島根原子力発電所に対する 防災対策について

出雲市は福島のような事故が起こった時にはどういった対処をしてくださるのか、また現在どのような対策をとっておられるのか、ぜひ教えていただきたいと思っています。

回答

本市では、東京電力福島第一原子力発電所での事故を受け、3月17日に中国電力に対し、津波対策等安全運転の徹底について申し入れを行いました。また、3月30日、4月28日には中国電力を招き、島根原子力発電所における津波対策等の説明を受けています。

また、島根原子力発電所から20km圏内の住民が避難する場合、市町村あるいは県境を越えた避難が必要になる可能性があることから、5月24日に島根県

の呼びかけで設置された原子力防災連絡会議において、連絡通信体制・初動体制、住民避難等について検討しています。本市としては、この連絡会議の検討結果を踏まえ、適切な避難計画等を策定していきます。

安定ヨウ素剤は、出雲市内では、県立中央病院に保管されており、原子力災害で多量の放射性ヨウ素が放出される危険性が高まった際、国の指示により、適切に使用されることになっていきます。

〔防災交通課〕

ご意見・ご提案と回答の公開について

いただいたご意見等については、すべて市長が確認します。市長は担当部課と十分に協議し、その結果を文書にて回答します。いただいた意見については、原則市ホームページで公開します。ただし、以下の場合は回答及び公開しません。

- ◎匿名のもの（氏名・住所の記載がないもの）
- ◎市政に関係しないもの
- ◎他人を誹謗中傷するもの
- ◎営利企業等の宣伝に関するもの
- ◎意見等の趣旨が意味不明なもの など

市長ポストへの投書方法

市長ポストへの投書には、2つの方法があります。市長からの回答を希望される場合は、必ず住所・氏名を明記してください。

- ①本庁および各支所に設置している「市長ポスト」に直接投書してください。様式は問いませんが、本庁・各支所に専用の用紙を設置しています。
- ②ホームページから電子メールで投書してください。

おたずね／広報情報課 TEL21-8578

6月13日から中央病院を基地病院として運航を開始しました。

ドクターヘリは、日中は中央病院屋上へリポートに待機し、各消防本部から要請があれば、直ちに医師、看護師が搭乗し、現場に出勤します。

運用につきましては、中央病院屋上へリポートに午前8時30分から午後5時15分まで待機することを基本とし、日没が早い時期は午後4時半まで待機、日没が遅い時期は午後6時まで待機します。待機終了後の夜間は出雲空港に駐機し、翌朝、出雲空港から中央病院屋上へリポートに移動してきます。

このため、待機開始時と待機終了時の1回、出勤に応じて1から3回程度の離着陸を行います。（ドクターヘリは夜間の運航は行いませんが、これまでどおり防災ヘリによる夜間の救急

搬送は引き続き行います。）

なお、現在は中央病院に給油施設を整備中のため、出勤終了後、その都度、出雲空港において給油するための離着陸が必要であり、その分の離着陸数が増えています。8月下旬には給油施設が完成しますので、離着陸の回数が少なくなります。

いただいたご意見は現場にも伝え、今後とも安全運航を第一として、その上でルートを工夫するなどできる限り影響が少なくなるよう努めてまいりますので、引き続きご理解を賜りますようお願い申し上げます。

〔島根県医療政策課〕



参考

ドクターヘリ出勤回数（6月13日から7月26日） 67件

うち県東部からの要請…38件

（うち出雲消防からの要請…19件）

県西部からの要請…24件

隠岐からの要請…5件

ドクターヘリの出雲空港での給油回数…39回

（県立中央病院に給油施設が完成する8月下旬（予定）から給油のための離着陸数が減少します。）